
桜の下には

杜若

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桜の下には

【Nコード】

N7702B

【作者名】

杜若

【あらすじ】

喧嘩して家を飛び出した私夜桜を見て反省をするのだが・・・

(前書き)

怪談小説第3弾

よく扱われるお題ですが・
・
・
・

「うわあ・・・」

夜空にほの白く浮かび上がる桜を見て、

私は感動のあまり、ため息をついた。

もうちょつと頭のよさそうな表現の仕方はないかな。

とチラツと思ったけど。

私は本もろくに読まない主婦だから、何も思いつかない。

ただ、もう一度桜の木を見上げ、うわあ。と眩く。

ここは小さな公園で、しかも飲食が禁止されているから

花見という名の馬鹿騒ぎをする酔っ払いもない。

その分ライトアップなんて演出もないが、

都会の空は住宅の明かりだけで夜中でもぼんやりと明るいし

道路には街灯もある。

それに、かえってこの暗さの方が余計に桜の白さが際立って

美しく見えるような気がする。

私は顔を上げたまま、ぶらぶらと公園の中を歩いた。

人にぶつかる心配のない、一人ぼっちの特権だ。

こうして、夜中に外出するなんて何年ぶりだろう。

独身時代はそれなりに夜遊びもしたが、子どもが生まれてからは

暗くなってから家を空けたことはない。

「そういえば、よくパパと夜の公園を散歩したっけ」

まだ新婚だったあの頃は、自分だけは疲れたような格好で

子どもを公園で遊ばせるようにはなるまいと思ったのに、

気がつけば、部屋着とかわからないような格好にすっぴんのまま

子どもと公園に出かけるような、りっぱなおばさんになってしまっ

た。

「パパが冷めるわけよねえ」

残業を口実に帰りが午前様の毎日に、私はさしたる疑問も持たなか

った。

でも、ある日本当に久しぶりに夕方駅前に出かけた時、見つけてしまった。

夫が若い女性と私には久しく見せたことのない「男」の笑顔で手を繋いで歩いていくのを。

帰ってから問い詰めたら、一言

「お前に女を感じなくなった」

ですって。頭に血が上って飛び出しちゃったけど。

私も子供にかまけすぎていたかもしれない。

うん、私も悪い。反省しよう。

明日は子どもを母に預けてデパートに行こう。

春の服と化粧品を買ってみよう。

こんな桜みたいなの、かわいいピンクの口紅なんてどうだろう。

夫はちよつとごつい外見だけど、かわいいものが大好きなのだ。

それをつけて、夫とこの夜桜をもう一度見にこよう。

そうすれば、きっとなかなり出来る。もう一度やり直せる。

「そうしよう。がんばろう」

ちよつと独り言には大きな声で言ったとき、

「ああ。」

と驚いた声が聞えた。

私もびっくりして振り返ると、お隣の奥さんが公園の入り口に立っていた。

あらやだ。今の独り言聞えちゃったかな。

照れ笑いしながら

「こんばんは」

と挨拶する。あの奥さんも夜桜を見にきたのかしら。

それにしても顔色が悪いわ。

あら、何でそんなに怖い顔してるの。

いやだわ、人を指差して。

あ、そんなに走っていつてしまわなくても。

やな感じ。そりゃ、一人で公園をぶらぶらして独り言をしゃべってれば
ちよっとはおかしいなと思うかもしれないけれど。逃げることはない
じゃない。

と、思ってから、私はふと怖くなった。

そういえば、この間テレビでやっていたわ。

満開の桜の下には幽霊が出るって。

幽霊って誰にでも見えるわけじゃないんでしょ。

私には何にも見えないけど、あの奥さんには何か見えたかもしれない
い。

うう、なんだか背筋が寒くなってきちゃった。

帰ろう。子どもはもう寝てしまったと思うけど

夫はどうかかな？

ごめん、私たちもう一度やり直してみない？

っていえるといいな。

「お、お母さん」

「どうしたんだい。そんなに青い顔をして」

「い、今桜があんまりキレイだから公園の前を通って帰ってきたら、
お隣の奥さんが桜の下にいたのよ」

「お、お隣の奥さんって」

「そう、浮気をとがめられて逆上した旦那さんに殺されちゃった人
よ。」

「見間違えじゃないのかい？」

「ちがうわ。はっきりと顔を見たもの」

「・・・・・・そうかい、49日もすぎたのにねえ。

自分が殺されたのに気付いてないのかもしれないね。

哀れだよ」

(後書き)

どうでしたか、よろしければ感想を聞かせてください

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7702b/>

桜の下には

2010年10月28日04時37分発行